

RESAS利活用普及促進事業（新しいワークショップの開発）

事業報告書

2020年10月28日 株式会社Ridilover

目次

1. はじめに

2. RESASを活用した政策立案WSの実施スキーム

3. 実施内容（概要）

- ワークショップ実施地域（新潟県十日町市）
- 本事業の流れ
- スタッフ紹介/実施体制

4. 実施内容（詳細）

はじめに

本事業では、新潟県十日町市でのワークショップ実施を通じて、RESASを活用した新しいワークショップとして次頁のモデルを考案した。

従来との相違点は、

官民でのフラットな議論を積み重ねながら作り上げた提言を、役所幹部層へ報告する流れをとることで、様々な意見を集約しながら実行性の高い政策を立案できることにある。

その分従来モデルに比べて一定の時間・労力を要するものではあるが、別添資料等をフォーマットとして転用することで、他自治体でも同様の取組を進めることが期待できる。

今後実施される政策立案ワークショップでは、もちろん次頁の全てのステップが実施されることが理想ではあるが、例えば「論点の洗い出し」を行った後に従来実施してきた「RESAS出前講座」を行う等、各ステップを部分的に取り入れることも検討されたい。

RESASを活用した政策立案WSの実施スキーム

テーマ設定

観光、産業振興、教育、人口問題等、各自治体・部署の抱える課題感をもとに設定。

論点の洗い出し

ワークショップ参加者（民間事業者等）への事前ヒアリング等を通じて、テーマに関し「どんな事象が起きているのか」「関係者はどんな課題感を持っているのか」などを整理。

データ収集・分析

整理した論点に関係するデータを洗い出し、収集してグラフ等へ加工・分析。
「どんなデータが必要か？」自治体職員とのワークショップ形式でRESAS以外も広く検討することや、RESASの使用についてはハンズオンでの支援を行うことが有効。

論点の絞り込み

民間事業者等を含めたメンバーで、ワークショップを実施。分析したデータを見ながら、「このテーマにおいては、この課題を解決したい」という論点を見出す。視野を広げるため、参加者以外へのヒアリング（フィールドワーク）等を行っても良い。

具体的提案の検討

民間事業者等を含めたメンバーで、ワークショップを実施。絞り込んだ論点に対し、「どのような取組が必要か」「その取組を実現するためには、誰が何をする必要はあるのか」「その中で、行政だからできる／行政にしかできないもの＝政策は何か」を検討する。

資料作成

データに基づく現状・必要な取組・政策提案について、資料に整理。
必要に応じて、再度データ収集・分析等を行うことが望ましい。

成果報告

役所幹部層、ワークショップ参加者（民間事業者等）送り出し元等に対し、作成した資料に基づき報告

実施内容（概要）

ワークショップ実施地域（新潟県十日町市）

十日町市は、新潟県中越地方で長野県との県境に位置する、日本でも有数の豪雪地帯です。

アートによる地域活性化先進事例としての「大地の芸術祭」や、織物や農作物をはじめとする数々の地場産業を有しながらも、人口減少・少子高齢化による担い手不足や耕作放棄地の増加等、さまざまな地域課題を抱えています。

十日町市は
ココ!

新潟県中越地方に位置しています。山・川などの自然に恵まれた、四季の表情豊かなところです。



【基本情報】

- ・人口 : 5.333万人
- ・面積 : 590.39平方キロメートル
- ・高齢化率: 36.0% (全国平均 26.6%)
- ・産業 : 稲作を主体とする農業(魚沼産コシヒカリ等)、織物
温泉やアートのあるまちづくりを活かした観光、など



裾野の広い「観光産業」の振興を通じた地域課題の解決を企図し、「観光」をテーマに、RESAS等を活用しながら官民でのディスカッションにより政策立案につながるワークショップを実施

【本事業における十日町市の実施体制】

- ◆ 産業観光部 観光交流課 観光企画係 ……2名(係長を含む)
- ◆ 産業観光部 観光交流課 芸術祭企画係 ……3名(係長を含む)

本事業の流れ

関係者：

WS参加者

市役所職員

フィールドワーク協力者

リディラバ

事前ヒアリング
7/20-21

WSの民間参加者ひとりひとりへの事前調査

普段の業務や十日町の観光について考えていること、関心ごと等をヒアリング。

WS(第1回)
7/22

市役所職員による、論点データ集の作成

事前ヒアリングをもとに、WS第2回で想定される論点や、その論点に必要な主要データをRESASを活用して洗い出す。データを整理/分析して論点データ集を作成。

WS(第2回)
7/31

論点データ集をもとに、官民での対話

市役所職員/民間メンバー計13人で、論点データ集や実感をもとに十日町市の現状を分析。今後特に注力すべき視点や必要な取り組みについて対話。

フィールドワーク
8/11-12
(8/19報告会を実施)

ワークショップ参加者以外の市民等の意見を確認

WS第2回で洗い出された論点に対して、ワークショップ参加者以外の民間事業者や、十日町市出身の大学生等にヒアリングを行い、幅広い視野で内容を精査。

WS(第3回)
8/27

あらためて、十日町市の現状、必要な取組を検討

フィールドワークで得られたフィードバック等により絞り込んだ論点に対し、グループに分かれて、現状分析、必要な取組/実現プラン、将来像等をディスカッション。

ブラッシュアップ

これまでのディスカッションを、提言としてとりまとめ

市役所職員が主体となってワークショップ等の内容を資料に落とし込みながら、適宜、その他参加メンバーと追加のディスカッションを実施。

成果報告会
9/25

成果報告

市役所幹部、その他参加メンバーの送り出し元組織に対し、ブラッシュアップ期間に作成した資料をもとに成果報告

約2か月

スタッフ紹介・実施体制



梅原 慎吾（メインファシリテーター）

東北大学卒業後、東京都庁にて税務やICTによる業務改善等に9年間従事したのち、リディラバに参画。地方自治体の計画策定、データ活用の支援等、省庁・自治体案件を複数担当。



井上 朝雄（全体統括・ファシリテーター）

東京大学卒業後、株式会社文藝春秋をへてリディラバに参画。経済産業省との実証事業「未来の教室」プログラムを担当し、翌年に自社事業化。事業開発チームリーダー兼社長室長として多数の案件を統括するほか、法人案件も複数担当。

その他3名のファシリテーター・運営補助スタッフが事業をサポート。

現地ワークショップでは、メインファシリテーターと他2名のスタッフにて、プログラムを実施。

実施内容（詳細）

事前ヒアリング (7月20-21日)

※本事業における「テーマ設定」については、市役所職員との協議の中で決定しており、特筆すべき論点がないため、割愛した。

関係者：

WS参加者

市役所職員

リディラバ

狙い

- ✓ 民間コアメンバーの日頃の活動や考え等を理解し、ワークショップで論点となりうるポイントを想定することで、効率的・効果的なデータ活用（イシュードリブんなデータ収集・分析）につなげる。
- ✓ 民間コアメンバーと事前のコミュニケーションを取ることで、ワークショップの円滑な遂行に資する良好な関係性を構築する。

実施内容

ワークショップへの参加者として、十日町市の「観光」に関わる市内の民間事業者を8名選定。ワークショップ開催前に、本人や団体の活動といった基礎情報や、十日町市の観光に対する思いや課題感等のヒアリングを行った。

実施後の振り返り

- 各1時間程度のヒアリングで、実施前の狙いは概ね達成することが出来た。
- 特に、複数名へのヒアリングを重ねる中で重複・相違する意見が見られたことが、論点の絞り込みという点において有意義な成果だった。
- また、今回はすべてのヒアリングを民間コアメンバーの日常的な勤務地において行った。民間コアメンバーの話しやすさや、場所から発想を受けた会話が生まれることを考えると、可能な限り役所会議室等ではなく、先方の勤務地において実施するのが望ましい。
- さらに、今回はヒアリングの過程で、民間コアメンバーからも貴重なデータの提供を受けた（鉄道の乗客数、観光協会に対する問い合わせ状況等）。これにより、以後さらに幅広いデータの分析が可能になっている。
- 今回はスケジュールの都合上、ワークショップ①の前日まで事前ヒアリングを実施した。本来的には、事前ヒアリングの結果を丁寧に整理するため、ワークショップ①の一週間前までを目途に実施するのが望ましい。

事前ヒアリング[※] (7月20-21日)

#	民間メンバー所属先
1	金融機関
2	地域旅行会社
3	観光協会
4	鉄道会社
5	商工会議所
6	地域旅行会社(温泉施設運営)
7	大地の芸術祭運営団体(NPO法人)
8	地域産物小売業者(着物販売等)

事前ヒアリング (7月20-21日 @十日町市)

<質問内容例>

- 現在の仕事内容/仕事への想いや至った経緯
 - 地域や「観光」との、仕事・プライベートを通じた関わり/課題感
-
- インバウンドについての所感/感じる事
 - 他事業者同士とのつながり
 - 十日町市の印象
 - これがあれば(イベントや二次交通など)活性化すると思う施策
 - コロナで変わったこと/これから何を目指していくとよいと思うか
 - 今後やりたいと思うこと

etc...

上段、2つの問いを中心に相手の興味関心や領域に応じて1時間程度ヒアリングを行った。

※ヒアリング議事録の詳細は別添資料1のとおり

ワークショップ第1回 (7月22日)

関係者：

市役所職員

リディラバ

狙い

- ✓ 単にデータを眺めるのではなく、イシュードリブンで必要なデータを洗い出す作業を体験する。
- ✓ RESAS等を、ハンズオンの支援を受けながら使用する機会を創出する。

実施内容

事前ヒアリングの結果を元に、市役所職員にて、ワークショップ②で想定される論点や、各論点に対する主要なデータを洗い出した。また、実際にRESAS等を使いながら洗い出したデータを整理・分析し、ワークショップ②で使用する論点データ集を作成した。

実施後の振り返り

- イシュードリブンで必要なデータを洗い出すという点については、ワークショップ形式で外部のファシリテーター(リディラバ社員)が入りながら自由な議論を行ったことで、当初想定していなかった多くの必要なデータを抽出することが出来た。
- 参加した十日町市役所職員はRESASをほとんど利用したことがなく、基本的な画面遷移等から説明が必要な状態であった。そのため、今回のようなハンズオンでの作業支援は有効なものであったと考える。
- 観光入込客数等、業務用の端末から持ち出しが困難なデータも存在したが、当日は印刷した紙ベースで分析の切り口を議論することで、以後の円滑な作業につなげることができた。
- 上記も含め、**当日時間内で必要なデータを収集することは出来たものの、それを可視化・分析することについては、終了後のオンラインでのメンタリング(1週間程度)で行った部分も多い。**ただし、可視化・分析について使用したツールはエクセル・パワーポイント(一部、無料・オンラインのテキストマイニングツール<https://textmining.userlocal.jp/>も使用)のみであり、市役所職員も日常的に慣れ親しんだツールであることから、メールでの資料のやりとり及びオンラインミーティング(1時間×2回)で十分な成果を出すことが出来ている

ワークショップ第1回 (7月22日)

開始時間	終了時間	所要時間	概要
10:00	10:10	0:10	イントロダクション (挨拶、自己紹介)
10:10	10:20	0:10	チェックイン
10:20	11:05	0:45	ディスカッション①
11:05	11:15	0:10	小休憩
11:15	12:00	0:45	ディスカッション②
12:00	13:00	1:00	昼休憩
13:00	13:30	0:30	WS第二回でのテーブルファシリのレク チャー
13:30	17:00	3:30	RESASを使って論点データ集作成

◆ チェックイン

- ・本事業で目指すゴール

◆ ディスカッション①

- ・「現状分析の枠組み」を考える
- ・事前ヒアリングの共有
- ・分析のフレームワーク案

◆ ディスカッション②

- ・「こんなデータがほしい」を考える

◆ テーブルファシリレクチャー

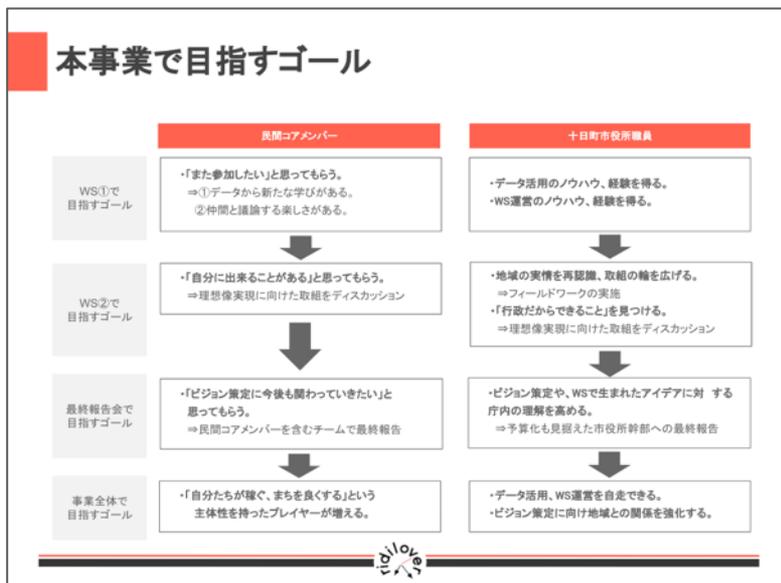
- ・スムーズなアイデア出しのために担っ
てほしい役割について

◆ 論点データ集の作成

- ・「必要なデータ」を探す
- ・RESASの見方/使い方
- ・データの抽出

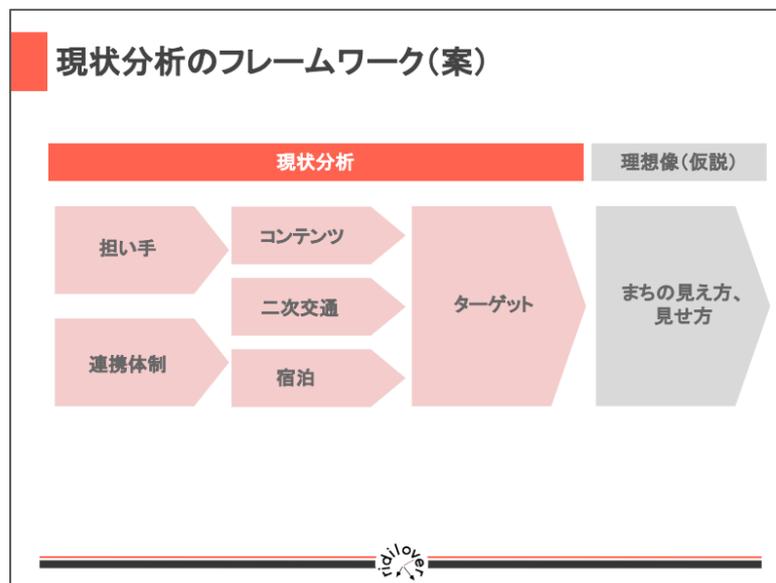
※使用スライドの詳細は別添資料2のとおり

実施風景・使用スライド例 (WS第1回)



▲ チェックイン

本事業を通じて何を達成したいのかの目線合わせを行う。



▲ ディスカッション①

事前ヒアリングをもとに、民間メンバーが課題感を感じていそうな内容をだまかに分類してフレームワークを作る。これをもとに必要なデータを探していく。



実施風景・使用スライド例 (WS第1回)

どんなデータが必要？

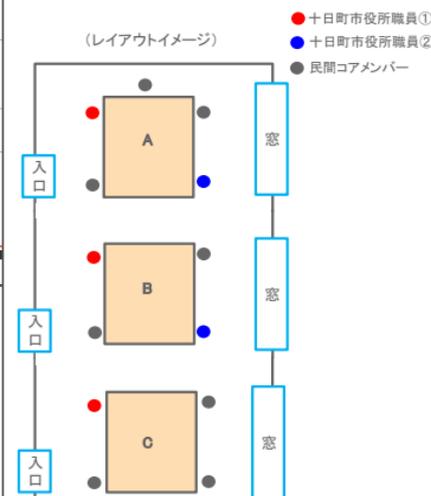
× 「こんなデータ無いだろうけど・・・」

◎ 「あるか分からないけどこんなデータ見てみたい！」

分類	データの例
担い手	<ul style="list-style-type: none"> 生産年齢人口の推移
連携体制	<ul style="list-style-type: none"> 過去の取り組み実績
受入れ体制	<ul style="list-style-type: none"> 年間のイベント数 田舎体験、農業体験等のアクティビティ 観光施設の数
受入れ体制	<ul style="list-style-type: none"> 市内の宿泊施設数 路線バスの発着本数
ターゲット	<ul style="list-style-type: none"> 観光客(実績値)の属性(年齢、居住地、性別・・・)

▲ディスカッション②

WS②における市役所職員の役割等について



<十日町市役所職員①について>

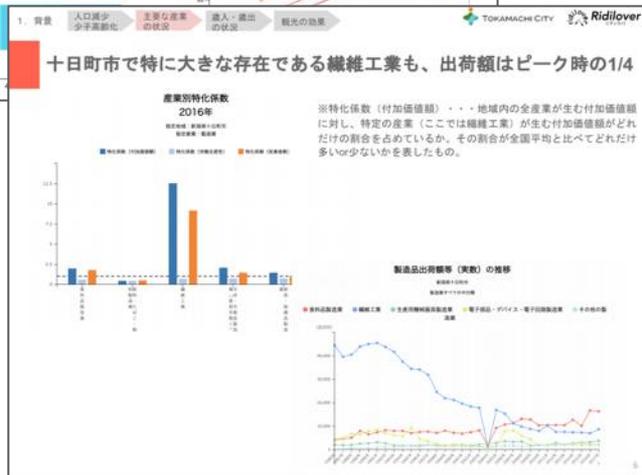
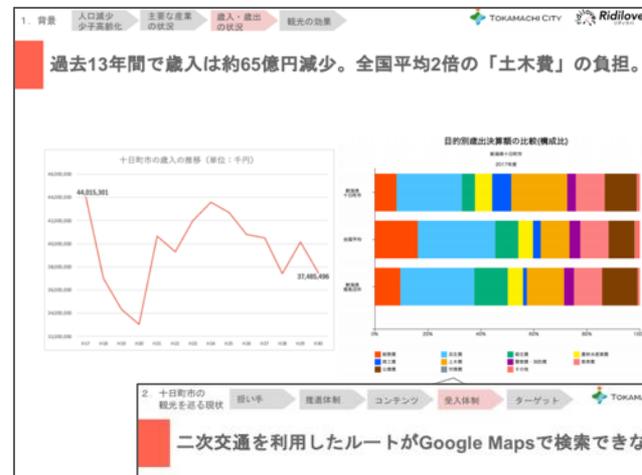
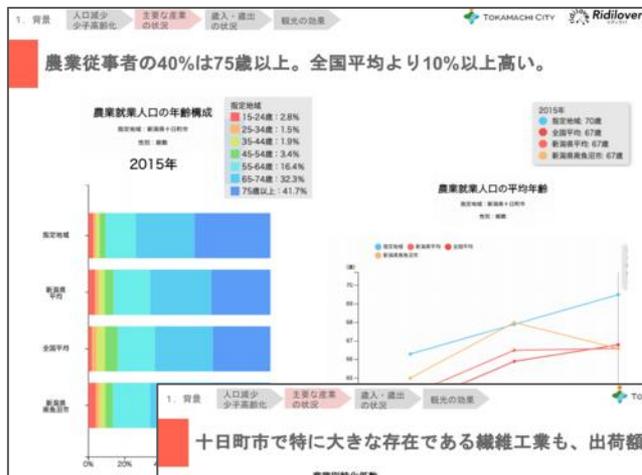
- 一 班(A-C)における書記、議事の可視化
 - 一 対話が滞った場合の呼びかけ、基本的な対話ルール(人格・立場に対する批判等、非建設的な議論を避ける)の履行確認
 - 一 基礎データ集(仮)の内容に関する説明(参加者から質問があった場合等)
- ※その他、アイデア出しのフェーズでは一般参加者と同様、発言等行う。

<十日町市役所職員②について>

- ・一般参加者と同様の立場にて参加

▲テーブルファシリレクチャー

実施風景・使用スライド例 (WS第1回)



▲RESASやその他のデータを活用して抽出/分析し作成した論点データ集(一部抜粋)

必要なデータを見つけたら、まずはスクリーンショット等で素材を集める。紙媒体はコピーをしてマーカーなどでハイライト。すべて集めた後に、必要なデータだけを抜粋してエクセルでグラフを作成したり、データから分かることを簡単にまとめていく。

ワークショップ第2回 (7月31日)

関係者：

WS参加者

市役所職員

リディラバ

狙い

- ✓ 客観的なデータを立脚点にすることで立場の異なる参加者が対等に議論する場を生み出す。
- ✓ データからの気づきをもとに、新たな視点で必要な取り組みを議論する。
- ✓ 各参加者に、議論する楽しみや、「まち」に対する主体性を感じさせることで、今後の本事業のプロセスに主体的に関与する土壌を作る。

実施内容

市役所職員・民間コアメンバーにより、論点データ集や参加者の実体験・実感をもとに十日町市の現状を分析。さらに、現状を踏まえ、今後必要となる取組について対話を行った。

実施後の振り返り

- 立場の異なる参加者間での円滑な議論という点では、RESASをはじめとしたデータの可視化が非常に有効であった。一般的なワークショップと比較して、議論の飛躍や散逸を抑え、対話のやりとりを活発にする効果が大きかったものとする。
- 特に今回、イントロダクションにおいて、主にRESASのデータを利用しながら、「そもそもなぜ今、観光振興について考えるのか？」をファシリテーターからレクチャーした。こうした大局的、根源的な問いを考え、参加者の目線を揃えることができるのは、RESASの持つ大きな力であるとする。
- データからの気づきやそれに基づく取組という点では、「単に市内のイベントの数を数え、一覧表にしたもの」や、「別事業で作成されていた市民アンケートの結果をあらためて可視化したもの」から多くの参加者が気づきを得ていたことが印象的である。多くの自治体において、こうした「ひと手間によって新たな気づきを生み出す可能性を持った情報」は既に保有しているものと思われる。事前ヒアリング等のプロセスを経てイシュードリブンで必要なデータの洗い出しを行うことで、潜在的な価値を持つ情報を「データ」として活用することが出来るはずである。
- また、今回「データから得た気づきの共有」は30分の時間配分で実施したが、議論は尽きず、参加者から「時間が足りなかった」「もっと話したかった」との声が多く聞かれた。今後実施する上では、このパートにより多くの時間を割くことも検討して良いと考える。

ワークショップ第2回 (7月31日)

開始時間	終了時間	所要時間	概要
09:00	09:10	0:10	イントロダクション
09:10	09:25	0:15	自己紹介
09:25	09:35	0:10	データから見る十日町市と「観光」
09:35	09:55	0:20	チェックイン/アイスブレイク
09:55	10:20	0:25	論点データ集の読み合わせ
10:20	10:40	0:20	ディスカッション①
10:40	10:50	0:10	小休憩
10:50	11:10	0:20	ディスカッション②
11:10	11:30	0:20	ディスカッション③
11:30	11:50	0:20	全体発表

- ◆ イントロダクション
 - ・今回のWSで目指すもの
 - ・WSのグランドルール
- ◆ データから見る十日町と「観光」
 - ・論点データ集作成の経緯
- ◆ チェックイン
 - ・「自分と観光との関わり」チーム内共有
- ◆ 論点データ集の読み合わせ
 - ・ポジティブな気づきには赤、ネガティブな気づきには黄色でハイライト
- ◆ ディスカッション①
 - ・「データから得た気づきの共有」
- ◆ ディスカッション②
 - ・「十日町の強み/弱みとは？」
- ◆ ディスカッション③
 - ・「これからどんな取り組みが必要か？」
- ◆ 全体発表

※使用スライドの詳細は別添資料3のとおり

実施風景・使用スライド例 (WS第2回)

今回のワークショップで目指すもの

- 十日町市の「観光」をめぐる、

現 状

×

必要な取組

- これらについて
「客観的なデータ」
「参加者の皆さんの実体験・実感」
をもとに、仮説を作りあげていきます。

3つのグラドルール

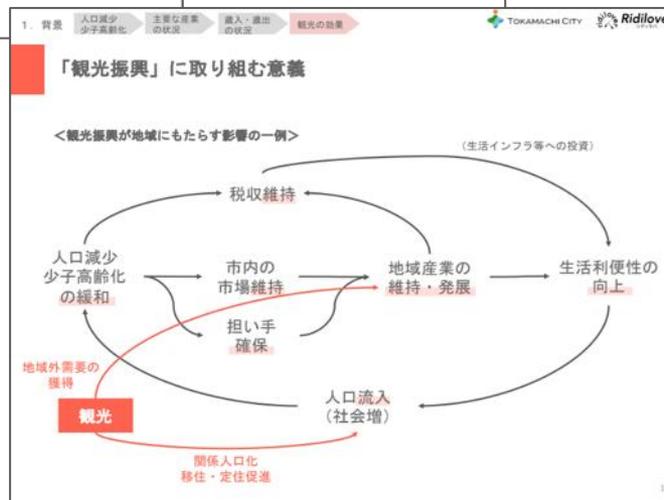
- 対話をする (≒お互いの意見を尊重する)
 - 考え方をぶつけ合いながら、一つの答えを出していくもの (相手の考えを尊重)
 - 特定のトピックに関して、お互いの意見の違いを理解し合い、質問によって相手の知性を引き出す
- 守秘義務

他の参加者からこの場で聞いた、言った話はこの場かぎり!

※データの内容等は除く
- 「質より量」を楽しむ

(C)Future sessions

▲イントロダクション



会の冒頭では、十日町の基本データとして

- ・人口推移
- ・主要産業の出荷額
- ・農業産出額や従事者の推移
- ・大地の芸術祭の経済波及効果

等を示すとともに、**「なぜ今観光振興に取り組むべきなのか」**についての目線合わせを行った。

実施風景・使用スライド例 (WS第2回)

チェックイン (15分間)

テーマ：「自分と観光との関わり」

- ここからは、各グループ内で話を深めていきます。
- まずは、相互理解！
- 「今日一番朝早くに起きた人」から話し始めてみてください！

例)

- ✓ 仕事・活動の中で観光振興のために取り組んでいること
- ✓ 十日町市にくる観光客や、地域のイベント等、十日町市の状況について普段思っていること

▲チェックイン/データの読み合わせ



十日町市のデータを見てみよう (10分)

- 十日町市の「観光」を考える論点データ集の
2. 十日町市の観光を巡る現状 について、「へえ〜」「やっぱり」「このデータってこういうこと？」等、何か気づきがあったところに、マーカーを引いてください。(1人5件以上目標！)
- ポジティブな気づき(例：こんな魅力あったんだ！)は赤色、ネガティブな気づき(例：こんなことになってたんだ・・・)は黄色でお願いします！

実施風景・使用スライド例 (WS第2回)

自己紹介 十日町市と観光 チェックイン データを見てみよう ディスカッション① ディスカッション② ディスカッション③ クロージング TOKAMACHI CITY Ridilover

ディスカッション① (30分)

テーマ：「データから得た気づきを共有しよう」

- グループ内で、自分がマーカーを引いた箇所=ポジティブ/ネガティブな気づきがあった箇所を共有していきます。
- 発言の際ははじめに、次の2点を伝えます。
 - ①「担い手」「推進体制」「コンテンツ」「受入体制」「ターゲット」「その他」のどれに該当する気づきなのか
 - ②ポジティブかネガティブか
- 記録担当の方は、各参加者の発言を付箋に書き、イーゼルパッドに貼り付けていってください。ポジティブな気づきは赤付箋、ネガティブな気づきは黄色付箋を使ってください。



自己紹介 十日町市と観光 チェックイン データを見てみよう ディスカッション① ディスカッション② ディスカッション③ クロージング

ディスカッション① (30分)

<イーゼルパッドのイメージ>

▲ディスカッション①



実施風景・使用スライド例 (WS第2回)

ディスカッション② (20分)

テーマ：「十日町市の強み・弱み(課題)とは？」

- データからの気づきや、自身の実体験・実感等から十日町市の強み・弱みを整理していきます。
- まずは、ディスカッション①の付箋を色別(赤・青・黄)に並び替えましょう！次に、個人ワーク5分(付箋記入)、その後グループ内で共有してください。
- 並べ替えた付箋を見て、「関連しそうなもの」のグループを探してみてください。
- もちろん、新しい発見や意見があれば追加も大歓迎です。
- 記録担当の方は、グループをペンで囲い、青の付箋で名前をつけて教えてください。また、新しい発見や意見があれば付箋で追加してください。



▲ディスカッション②



ディスカッション② (20分)

<イーゼルパッドのイメージ>

強み		
弱み		
取組	(ディスカッション③で検討)	

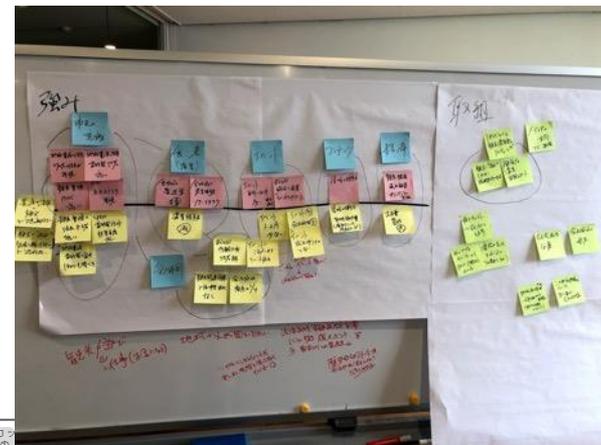
実施風景・使用スライド例 (WS第2回)

ディスカッション③ (30分)

テーマ：「これからどんな取組が必要か？」

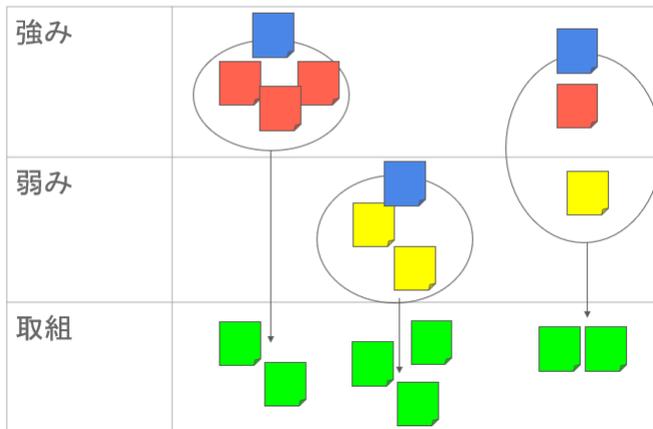
- ディスカッション②の「十日町市の強み・弱み（課題）」に対し、どんな取組が必要か？ アイデアを出していきます。
- このディスカッションでは、「十日町市にこんな取組があったら良いな」という理想状態を考えます。
- 「主語」は無し！「自分の仕事では出来ない／関係ない」も無視！ ここでは口だけ番長でOKです。
- まずは個人ワーク7分（付箋記入）、その後グループ内で共有してください。
- 記録担当の方は、取組のアイデアを緑の付箋に書き、イーゼルパッドに貼り付けていってください。

▲ディスカッション③



ディスカッション③ (30分)

<イーゼルパッドのイメージ>



フィールドワーク (8月11-12日)

関係者：

市役所職員

フィールドワーク協力者

リディラバ(オンライン)

狙い

- ✓ ワークショップ参加者以外の意見をもとにワークショップ(第2回)での結果を検証することで、以後より多くの視点を取り込んだディスカッションを行う。
- ✓ 関係者の実体験や実感を聴取し、データの背後にある事象についての理解を深める。

実施内容

ワークショップ(第2回)のディスカッション内容を1枚のスライドに整理し、それに対する意見を聴取する形で、9名(一人1時間程度)のヒアリングを行った。
今回は、ワークショップ(第2回)で提示された論点を踏まえ、市内の観光関連事業者及び、十日町市出身の若者(市外の大学に通う学生等)、計9名を対象とした。

実施後の振り返り

- 「交通の不便さ」がそのまま観光資源になり得るという独自の意見や、「地域資源は第一に地域の歴史・文化」と「歴史文化に特化しすぎると再訪を促す観光にはならない」という対立する意見が得られる等、より多くの視点を取り込むという狙いは十分達成されたものとする。
- また、若者世代の当事者から、「地域の良さを知ることの重要性も分かるが、地域特有の閉鎖性や押しつけの強さから抜け出したい気持ちもある」「観光系の大学(市外)に進学し、大学立地地域に密着した取組を進めている」「若者を活用した情報発信等既にあるが、「何を発信するのか」から若者が関われるようにしてほしい」等の率直な意見を聴取し、「観光客増加に意欲的な10代」が「地域外に流出」し「若者主体の取組が生まれていない」というデータからの気づきの背後にある事象・原因を理解することに繋がった。こうした知見は、フィールドワークを実施したからこそ得られたものであると考える。

フィールドワーク (8月11-12日)

#	フィールドワーク協力者(ヒアリング先)
1	地域産業振興団体 職員
2	小売業(地域特産品) 代表取締役
3	観光タクシー事業者 代表取締役
4	地域温泉組合 組合長
5	キャンプ場運営会社 常務取締役
6	(十日町市出身の若年層・大学生)
7	(十日町市出身の若年層・大学生)
8	(十日町市出身の若年層・大学生)
9	(十日町市出身の若年層)

フィールドワーク (8月11-12日)

<質問内容例>

- 事業概要
- 現在の仕事内容/略歴
- WSで取りまとめをした内容の説明/率直に気になった点や感想

-
- 地域資源の磨き上げについてどう思うか/必要な取組は何か
 - 十日町市が目指していく方向性は何だと思うか/魅力とは何か
 - 既に実際に行っている人が周りにいるか
 - やってみたいと思う取組はあるか
 - 取組によって効果が出るイメージを持てるか

etc...

上段、3つの問いを中心に相手の興味関心や領域に応じて1時間程度ヒアリングを行う。

⇒後日、WS参加メンバー有志、フィールドワーク協力者有志、十日町市役所職員が集まって、フィールドワークで得られた意見やフィードバックを共有した。(リディラバはオンライン参加)

実施風景・使用スライド例 (フィールドワーク)

十日町市の「観光」を考えるWS (第2回) の結果について

現状	インプット (主体)	活動 (必要な取組)	アウトプット (効果)	ア (目)
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「観光客を増やす」ことを重視する住民は8.6%と低い。 ✓ 10代だけで見ると、34%と高い。 ✓ 「地域資源を活用すること」を重視する人は70%と多い。 ✓ 市内のイベント年間118件以上と多数。費用対効果や、担い手の不足、相互の連携には課題があるが、観光客誘致や地元経済に一定の効果を生んでいる。 ✓ 観光客のうち宿泊するのは1割程度。宿泊業の事業所は南魚沼市の1/4。 ✓ 観光案内所への問い合わせには、観光スポットへのアクセスの問い合わせが多数。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の若者 (10代) その他の地域住民 観光関連団体・企業等 ??? 	<p>訪れる「きっかけ」づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 情報発信 <p>イベント/地域資源の磨き上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 今ある日常を素材に、持続可能なイベントづくり ✓ 宿泊を促す夕方～夜中心のイベント ✓ イベント間のシナジー創出、運営負担の削減 ✓ 第二の清津峡トンネル <p>受入体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 宿泊施設を多数有する湯沢町との連携 ✓ 古民家改修、ゲストハウス等、新たな宿泊施設 ✓ 二次交通の??? ✓ 外国人に対する「来る前」の情報提供 	<ul style="list-style-type: none"> 観光入込客数の増加 ✗ 1回あたりの滞在時間の増加 ✗ 1回あたりの消費額の増加 ✗ 来訪頻度の増加 	<p>???</p>

←メインファシリテーター

←補助スタッフ

←ヒアリング対象者

※使用スライド/ヒアリング議事録の詳細は別添資料4,5のとおり

ワークショップ第3回 (8月27日)

関係者：

WS参加者

市役所職員

リディラバ(オンライン)

狙い

- ✓ 参加者の希望に沿ったグループ(テーマ)ごとに分かれることで、深い議論を誘導する。
- ✓ 民間・行政・市民の役割分担を考えることで、「行政だからできる／行政にしかできない」を発見し、より実行性／実効性の高い提言を創出する。

実施内容

事前に聴取した参加者の希望に沿って、「若者と地域・観光」「地域資源の磨き上げ」「理想的なイベント・交通・宿泊のあり方」の3グループに分かれてディスカッションを実施した。論点データ集やこれまでのワークショップ／フィールドワークの結果を踏まえて、あらためて各テーマに関する強み・弱みを分析した上で必要な取組を導出したことに加え、その取組を実現するためのプランとして官民の役割分担についても議論した。また、今回のワークショップを経て各参加者がたどり着いた「観光を通じて実現したい十日町市の未来」についても対話を行った。

実施後の振り返り

- 希望制のグループだったこと、各グループに1名ずつファシリテーター(リディラバ社員)が参画したことが奏功し、全ての参加者の主体的・意欲的な活動のもと、「若者主体の取組を実現する包括的な支援」「芸術祭と地元産業の新しい連携策」「『非日常』をコンセプトとした一体的プロモーション」という取組を取りまとめることができた。
- また、詳細にディスカッションのフレームワーク(4W1H等)を提示することで、取組を実現するためのプランについてもメンバー全員が同じ方向を向いて拡散することなく議論することができた。
- 一方、全体4時間という設定の中で実施したが、多様な意見が出される中で、都度データ等の根拠に立ち戻りながら議論していくことは時間的にも困難であった。様々な参加者の自由な発想／意見を活かすためにも、**発散・収束のための(官民での)ワークショップと、その前後での(行政職員による)データ分析作業、という分担を明確にして進行することが望ましい。**

ワークショップ第3回 (8月27日)

開始時間	終了時間	所要時間	概要
13:00	13:10	0:10	イントロダクション
13:10	10:20	0:10	アイスブレイク
13:20	14:25	1:05	ディスカッション①
14:25	14:35	0:10	小休憩
14:35	15:30	0:55	ディスカッション②
15:30	15:45	0:15	全体共有①
15:45	15:55	0:10	小休憩
15:55	16:25	0:30	ディスカッション③
16:25	16:40	0:15	全体共有②
16:40	17:00	0:20	クロージング

- ◆ イントロダクション/アイスブレイク
 - ・これまでの振り返り
 - ・WSのグランドルール
- ◆ ディスカッション①
 - ・「あらためて、十日町市の現状を考える」
- ◆ ディスカッション②
 - ・「実現プランを考える」
- ◆ ディスカッション③
 - ・「観光を通じて実現したい未来の十日町市を考える」

※使用スライドの詳細は別添資料6のとおり

実施風景・使用スライド例 (WS第3回)

(2020.08.27ver) TOKAMACHI CITY Ridilover

ディスカッション①

[10min]

十日町市の強み・弱みを振り返る

- お手元に、「論点データ集」「前回WSの結果」「フィードワークの結果」をお配りしています。
- あらためて各資料を見直しながら、「グループテーマにおける、十日町市の強み」「グループテーマにおける、十日町市の弱み」をそれぞれ一言で、付箋に書いてみましょう。



▲ディスカッション①



(2020.08.27ver) TOKAMACHI CITY Ridilover

ディスカッション①

[10min]

必要な取組を考える①

取組	なぜ？	なぜ？
(例) 今ある日常を素材に持続可能なイベントづくり	(例) 担い手の減少が続く中でも、イベントを通じて観光客を呼びたい。	(例) 観光客を通じて地域経済が潤ってほしい。
(例) 若者による情報発信	(例) 若者の発信によって、まちの良いところを観光客に知ってもらいたい。	(例) 観光客に愛められたら、若者以外の人もまちのことに関心持つようになるかも。

目標：1人2個以上！

18

実施風景・使用スライド例 (WS第3回)

(2020.08.27ver) TOKAMACHI CITY Ridilover

ディスカッション② [10min]

“4W1H”のフレームワークを埋めてみる

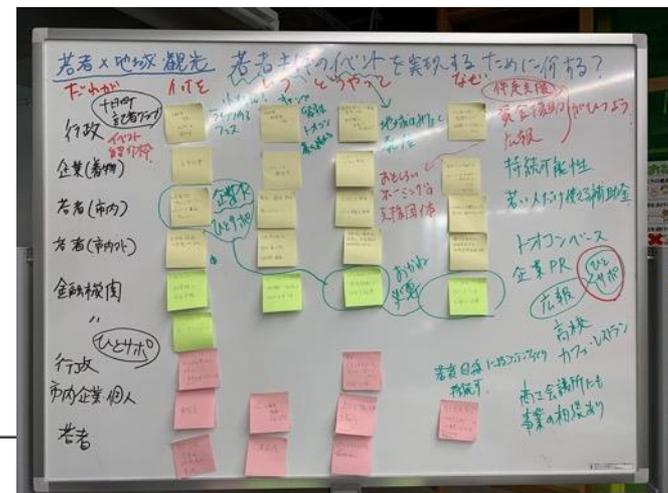
誰が who	何を what	いつ when	どうやって how	なぜ why
民間企業等 (自分自身)	(例) イベント企画のお手伝い	(例) コロナでイベントがなくなった、今!	(例) ワークショップ開いたり、インタビューしたり	(例) 過去の知見を活かしつつ地域の方主体で考えると良いイベントができそう!
民間企業等 ()				
民間企業等 ()				
民間企業等 ()				
行政				
市民				

(例) 今ある日常を素材に持続可能なイベントづくり

(例) 担い手の減少が続く中でも、イベントを通じて観光客呼び出し

(例) 観光客通じて地域経済が潤ってほしい

▲ディスカッション②



(2020.08.27ver)

ディスカッション② [10min]

“4W1H”のフレームワークを埋めてみる

- 先程選んだ取組を実現するためにはどうしたら良いのか、用紙Bを埋めながら一人ひとり考えてみましょう。
- 「誰が」の部分はあらかじめ印刷されていますが、思いつかないものは飛ばして、逆に印刷されていない「誰か」を書き足してもOKです。

実施風景・使用スライド例 (WS第3回)

(2020.08.27ver) TOKAMACHI CITY Ridilover

ディスカッション③

[10min]

5年後／20年後に思いを馳せる

- 実現プランの「なぜ？」も参考にしながら、「こんな十日町市になったら良いな」を一人ひとり考え、用紙Cを使ってアイデアをまとめてみましょう。
- 定量的な効果(アウトプット)にとらわれないこと、近未来の5年後／遠い未来の20年後を想像すること、を意識してみてください。



(2020.08.27ver)

ディスカッション③

[10min]

5年後／20年後に思いを馳せる

5年後の十日町市	20年後の十日町市
<p>(例)芸術祭がない年でも、年間通して観光客で溢れている</p> <div style="border: 1px solid black; width: 60px; height: 40px; margin: 10px auto;"></div>	<p>(例)最初は旅館のお客さんだったAさんが、気づけばご近所さんに。</p> <div style="border: 1px solid black; width: 60px; height: 40px; margin: 10px auto;"></div>

横の繋がりがあってもなくてもOK!

▲ディスカッション③



ブラッシュアップ (9月1日~9月18日)

関係者：

WS参加者

市役所職員

リディラバ(オンライン)

狙い

- ✓ 付箋、模造紙を使ったワークショップの結果を、成果報告用の資料として整理する。
- ✓ 整理の過程で、議論の抜け漏れや、データ等による根拠付けを補完し、より精度の高い提言として取りまとめる。

実施内容

共通のフォーマット、ワークショップ当日の成果物（模造紙、ホワイトボード写真等）をもとに、市役所職員が1名/1グループを担当し、資料作成した。

これまでの議論をパワーポイント形式で整理することに加え、各グループ1~2回その他参加メンバーを招集しての意見交換や、論点データ集以外も含めて追加でのデータ収集・分析等を行った。

実施後の振り返り

共通フォーマットや、作成過程でのメンタリング（メールベースでの修正提案等）を通じて、各グループ一定の粒度のアウトプットを作成することができた。

一方で、資料作成のスキルや論理的整合性への感度等、担当者による違いは大きいものと感じられた。本事業の射程範囲外ではあるが、**データ活用・政策立案の前段として、ロジカルシンキングやヴィジュアルコミュニケーションの手法に関する能力開発等も検討すべきと考える。**

成果報告会 (9月25日)

関係者：

WS参加者

市役所職員

リディラバ

その他(市幹部職員, WS参加者上席等)

狙い

- ✓ ワークショップでの検討内容を報告し、実現に向けたネクストアクション等、ワークショップの成果を事業等に生かしていくためのフィードバックを得る。

実施内容

まず、リディラバから本事業の経緯等を説明した。
次に、ワークショップ(第3回)のグループごとに、市役所職員から現状分析や施策等を報告した。
最後に、市幹部・内閣官房・リディラバから各グループの報告に対し、講評を行った。

実施後の 振り返り

講評では、「データが官民を超えた相互理解の基盤になっている」「市の、特に観光行政においてこうしたデータに基づく議論はこれまで無かった」「今回のようなワークショップを今後も続けていってほしい」といった声が聞かれ、RESASを活用したワークショップによる、新しい政策立案のモデルを示すことができたものとする。

一方で、「施策として『官民のコンソーシアム形式によるプロモーション』に留まっているが、より具体的に『どんなコンセプトに基づくプロモーションを行うのか』まで踏み込んだ検討があるとなおよい」といった講評もあった。初めての試みであった本事業のプロセスをさらに練り上げ、効率的かつ密度の濃い議論を展開することで、より具体的な施策まで検討を進めていくことが望まれる。

※使用スライドの詳細は別添資料7のとおり

実施風景・使用スライド例 (成果報告会)

Aグループ

テーマ：若者×地域・観光

テーマに関する十日町市の強み・弱み

<強み>
 ・観光を重要視している10代は多い。
 ・20代でもやる気のある層は一定数存在。

<弱み>
 ・若者の地元離れ

<背景・根拠>
 ・市総合計画のアンケート調査で「観光客を増やす」の回答割合が全体の35%が10代が顕著
 ・商工会議所や市役所へ、起業したい、何かやりたい20代からの相談がある(メンバー意見)

観光を重要視している10代は多い。

今後のまちづくりにおいて、「観光客を増やす」が重要とした割合(年代別)

意欲ある若者が主体

観光に対して意欲的な10代が、20代後半で対して適切なサポートを行うことで、個社「若者が活躍できる」イメージの定着⇒意



Aグループ

20代前半での人口流出。20代後半では約1/3しか戻らない。

年齢階級別純移動数の時系列分析
新潟県十日町市

15~19歳→20~24歳
 1980年→1985年: -2,215人
 1985年→1990年: -2,096人
 1990年→1995年: -1,880人
 1995年→2000年: -1,665人
 2000年→2005年: -1,374人
 2005年→2010年: -1,201人
 2010年→2015年: -950人

20~24歳→25~29歳
 1980年→1985年: 521人
 1985年→1990年: 644人
 1990年→1995年: 782人
 1995年→2000年: 626人
 2000年→2005年: 503人
 2005年→2010年: 478人
 2010年→2015年: 439人

Aグループ

実現プラン(理想状態)を考える

取組	起業した若者の次のアクションを実現させる(例:お米ビールで起業した若者が、まちおこしのため)		
誰が	何を	いつ	どうやって
若者	事業企画/仲間、資金集め/実施	イベント実施前	企画から実施まで、一気通貫の伴走支援を受けながら
市内企業	金銭、物資面の援助	イベント企画前	カネ/モノによる協賛
金融機関	資金相談	組織が動く時	資金計画サポート/各種助成金などの情報提供
記者クラブ	企画イベントの広報	イベント開催前	各メディアの媒体を使って
ひとサポ等	全体の相談窓口・活動支援	企画案件成時	各組織における支援内容の紹介
行政	金銭面の支援	イベント実施前	イベント補助金等
行政	ひとサポの支援(人サポ自体の相談窓口)	イベント実施前	行政のネットワークを通じた外部支援組織の紹介等

Aグループ

提言

理想状態に対する現状

- 市民活動の相談窓口・活動支援を行うひとサポ、協賛する民間企業、企業/団体同士をつなぐ金融機関、行政による補助金等、すでに若者をサポートできる関係者は一定揃っている。
- 一方で、意欲ある若者は現状、商工会議所や市役所等に個別に相談に来ており、包括的なサポートが受けられていない。

必要な施策

- 意欲ある若者が必要なサポートを受けるため、企画から実施まで一貫した伴走支援が必要。
- 具体的には、ひとサポを起点としながら、相談機能の強化(ネットワーク拡大、ビジネスモデルのメンタリング)、総合窓口としての認知獲得(ex:鯖江市役所JK課)。実現に向けては、「支援者支援」の考えのもと、行政がひとサポ等の支援団体をサポートする形を構築できると良いのではないかと。

(再掲) RESASを活用した政策立案WSの実施例

テーマ設定

観光、産業振興、教育、人口問題等、各自治体・部署の抱える課題感をもとに設定。

論点の洗い出し

ワークショップ参加者(民間事業者等)への事前ヒアリング等を通じて、テーマに関し「どんな事象が起こっているのか」「関係者はどんな課題感を持っているのか」などを整理。

データ収集・分析

整理した論点に関係するデータを洗い出し、収集してグラフ等へ加工・分析。
「どんなデータが必要か？」自治体職員とのワークショップ形式でRESAS以外にも広く検討することや、RESASの使用についてはハンズオンでの支援を行うことが有効。

論点の絞り込み

民間事業者等を含めたメンバーで、ワークショップを実施。分析したデータを見ながら、「このテーマにおいては、この課題を解決したい」という論点を見出す。視野を広げるため、参加者以外へのヒアリング(フィールドワーク)等を行っても良い。

具体的提案の 検討

民間事業者等を含めたメンバーで、ワークショップを実施。絞り込んだ論点に対し、「どのような取組が必要か」「その取組を実現するためには、誰が何をする必要はあるのか」「その中で、行政だからできる／行政にしかできないもの=政策は何か」を検討する。

資料作成

データに基づく現状・必要な取組・政策提案について、資料に整理。
必要に応じて、再度データ収集・分析等を行うことが望ましい。

成果報告

役所幹部層、ワークショップ参加者(民間事業者等)送り出し元等に対し、作成した資料に基づき報告

